

32. 京都府南丹市

1. 地域概要

対象地域	京都府南丹市美山町北（かやぶきの里）				
申請主体	一般社団法人南丹市美山観光まちづくり協会				
計画名	かやぶきの里における持続可能な受入環境整備事業				
観光客データ		平成31年	令和5年	令和6年	
	入込観光客数(千人)	217	189	234	
	- 国内	152	105	117	
	- 訪日外国人旅行者	65	84	118	
地域の特徴・観光資源等	<ul style="list-style-type: none"> 重要伝統的建造物群保存地区である「かやぶきの里」がある南丹市美山町北集落は、日本の原風景と言われる茅葺き屋根と里山景観が今なお残る、京阪神から約1時間半で訪れることができるエリアである かやぶきの里を中心に南丹市美山町では、「暮らすように旅をする」とテーマに、住民と来訪者が実際に触れ合う事ができる観光コンテンツも多くある 				
協議体制	協議の場				
	美山かやぶきの里観光まちづくり推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> 観光による持続可能な地域づくりとしての北区の活性化と集落の景観保全に資する価値創造を行なうことが目的 				
	参加者				
協議体制	行政機関等		住民関係者		
	<ul style="list-style-type: none"> 南丹市 (商工観光課・社会教育課) 		<ul style="list-style-type: none"> (一社)京都・美山・北村 かやぶきの里保存会 北区 		
	事業者				
<ul style="list-style-type: none"> 有限会社かやぶきの里 (一社)南丹市美山観光まちづくり協会 					

エリアマップ



1月中下旬にライトアップイベント「冬灯廊」を開催



美山民俗資料館



かやぶき民家が39棟





9月中旬から下旬にかけて一斉に開花するそばの花畑



全域図

2. 課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. トイレの混雑	<ul style="list-style-type: none"> 訪日外国人旅行者が増加する中、トイレは依然和式が大半であり、洋式トイレに集中することから混雑の原因になっている また、和式トイレの使用方法がわからない方が一定数おられるため、汚物等の汚れにより一部のトイレが使用不可となっている 	観光客・住民
2. 駐車場の混雑	<ul style="list-style-type: none"> 来訪時間が重なりやすく、時間帯での駐車場混雑になりやすい また、繁忙期やイベント開催時には、終日駐車場待ちが府道にも溢れ、渋滞の原因になることもあり、年に10日前後発生する 	観光客・住民
3. マナー問題	<p>生活の場もあるかやぶきの里において、民地への立ち入りやゴミのポイ捨てが目立つようになってきている</p> <p>また、集落内は、茅葺き屋根をはじめ燃えやすい建物が多くあるが、来訪者の歩きタバコなどのマナー問題も依然見受けられる</p>	住民

1 トイレの混雑



トイレの混雑

観光バスが集中する時間帯や、週末などを中心にトイレ待ちの列ができる

2 駐車場の混雑



入場待ちの車の列

秋の行楽シーズンや、冬のイベントを中心に入場を待つ車の列ができる

3 マナー問題



私有地の中を歩く来訪者

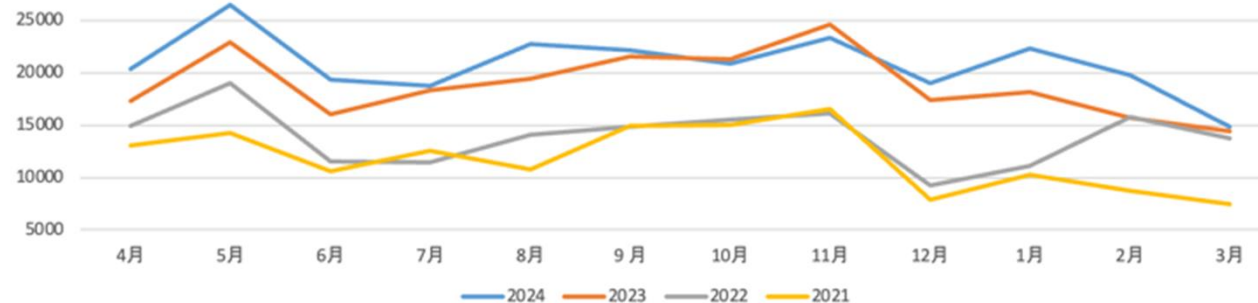
外国人を中心に道路以外の私有地に入る姿が観光客の増加とともに増加

3. 背景・要因

主な背景・要因

1. **訪日外国人旅行者の急増**
 - ・ 以前から増加傾向であった訪日外国人旅行者が、コロナ回復後急増した
 - ・ 近年では特に東南アジアからの訪日外国人旅行者が、冬の雪のある美山を訪れる傾向にあり、観光の平準化を進めているものの、冬の来訪者数の増加が進んでいる
2. **来訪者のマナー・ルールの理解の欠如**
 - ・ 和式の利用方法が分からない人がおり、トイレ内外で汚物問題が発生している
 - ・ 来訪者の間で、民地への立入、ゴミのポイ捨て、歩きタバコなどが悪いことであるという意識が欠如している
3. **観光地としての特性・立地**
 - ・ 関西主要都市および天橋立や舞鶴などから約90分圏内の立地のため、立地的に周遊型観光が中心となる

▼入込観光客数の月別推移



かやぶきの里は、標準化傾向にある。(3月が一番の閑散期となっている)

	2019年	2023年	2024年
入込観光客数	217,013	188,796	234,444
国内(人)	151,909	105,205	116,687
訪日外国人旅行者(人)	65,104	83,591	117,757

- ▶ コロナ禍は国内はほぼ変わらなかったがインバウンドが激減したものの、2024年はインバウンド需要の本格的な回復があり、2019年度を上回る入込観光客数は23万人となった。
- ▶ 平準化率(繁忙期9-11月と通年の比較)は2019年度は76%であったが、2024年度は、94%となっている。

4. 対策の概要

目指す姿	文化的景観を維持し、自治機能維持を図るために、来訪者も参画し、貢献できる仕組みのある観光地づくりを目指す
KGI	(指標) ①観光客と地域の関係性が良好であること ②環境負荷がコントロールされていること(混雑・汚物問題)
	目標値： ①地域住民の観光への満足度・受容度 /70%(令和9年度) ②来訪者満足度 / 90%(令和9年度) 現状値：①65%、② 93.1%

■ 補助事業の実施概要

受入環境の整備・増強

①かやぶきの里公衆トイレ混雑緩和に関する調査・提案事業

・和式トイレが大半だが、訪日外国人旅行者の増加により利用者が洋式に集中。加えて和式の利用方法が分からない人がおり、汚物問題が発生することで一部トイレが利用不可となり混雑している

・KGIへの貢献としては、トイレの快適性＝観光地に対する来訪者満足度に直結するとともに、トイレ以外での排泄等の問題行動を解決することで観光及び観光客に対する住民理解につながる

・事業内容としては、来訪者の現状に応じたトイレの最適化に向けた、調査及び、改善策の検討(ハード/ソフト)、計画の策定を行う

需要の分散・平準化

②かやぶきの里駐車場の管理システム導入に向けた検討

・イベント時期だけでなく、立地的に周遊型観光が中心となるため、来訪時間が重なり混雑しやすい

・事業内容としては、来訪者の分散化及び駐車場運営の最適化に向けた、かやぶきの里駐車場の無人化・予約管理システムの連携に関する調査 / ライブカメラ等設置及びWebでの情報発信に関する運用調査を実施する

地域全体の観光地域づくりに関わる事業

③地域全体の観光地域づくりに対する協議会運営および対策計画の磨き上げ

・これまで保存会が中心に課題解決を行ってきたが、課題が多岐にわたり、地域住民・行政機関・事業者等が集まり、同じ方向で対応を検討することがこれまで以上に重要になってきた

・事業内容としては、実現可能な計画策定と体制整備に向けた、地域協働計画の策定と協議会の運営、住民向けアンケート調査の実施、関係者間の調整や連携の円滑化を行う



補助事業③は全域

補助事業①

補助事業②



現状のトイレ
和式が大半であり、来訪者から様々な苦情寄せられている



順番待ちで並ぶ人々のたち
イベントやバスの到着時に集中



トイレと道路を挟んで向かいにある集落における排泄も課題に
(写真は私有地内の石の上に落とされたトイレトーパー)



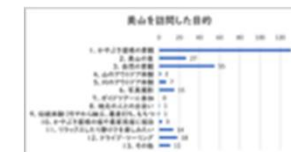
◀ 駐車場スタッフ

大型バスの予約はオンラインとなったが、料金の収受、一般車両の対応は、依然人力にて行っている

駐車場から溢れる車▶
府道の外で入場待ちをする。
長いときは1時間待ちのことも



来訪者の口コミから課題を抽出



住民向けアンケートの実施



住民が参加しての研修会

凡例：

- OT抑制・未然防止が必要な現状・問題点
- 現状・問題点が発生している箇所
- 現状・問題点への対応策
- 対応策を実施する箇所
- 本地域における取組 (補助事業名)



KGI：

- ①「観光客と地域の関係性が良好であること」地域住民の観光への満足度・受容度
- ②「環境負荷がコントロールされていること(混雑・汚物問題)」来訪者満足度

・測定手法：

- ①住民観光意欲調査 (南丹市)
- ②観光動向調査 (南丹市DMO)

・現状値：

- ①93.1% (令和6年度)
- ②65.3% (令和5年度)

・目標値：

- ①90%以上 (令和9年度)
- ②70% (令和9年度)

かやぶきの里駐車場の管理システム導入に向けた検討

KPI：

- ①駐車場の改修
令和7年度 計画の策定完了(100%)
令和9年度 改修等実施(100%)
- ②駐車場稼働の平準化率(混雑のピーク月/ピーク月以外の月)
令和7年度 なし(令和7年度は調査事業に留まるため)
令和9年度 80%

・駐車場の無人化・予約管理システムの連携に関する調査、及びライブカメラ等設置・Webでの情報発信に関する運用調査を実施する

・駐車場が来訪時間が重なり混雑しやすい府道の外に駐車場の入場待ち列ができています

かやぶきの里公衆トイレ混雑緩和に関する調査・提案事業

KPI：

- ①トイレの改修・新築
令和7年年度 計画の策定完了(100%)
令和9年度 改修等実施(100%)

・和式トイレが大半のため、訪日外国人旅行者の増加により利用者が洋式に集中してトイレが混雑。

・トイレの利用実態調査、課題抽出、改善策の検討(ハード/ソフト)、及び適切なトイレ利用を求めるための利用者向けサイン・案内板を設置する

地域全体の観光地域づくりに対する協議会運営および対策計画の磨き上げ

KPI：対策計画策定事業実施

- 令和7年度 100%
- 令和9年度 100%

5-①. 主な取組（詳細）

受入環境の整備・増強

補助事業①	かやぶきの里公衆トイレ混雑緩和に関する調査・提案事業		
事業目的	来訪者の現状に応じたトイレの最適化		
実施主体	南丹市	実施期間	令和7年10月～令和8年2月

【背景・課題】

- ・ 訪日外国人旅行者が増加する中、トイレは依然和式が大半であり、洋式トイレに集中することから混雑の原因になっている。
- ・ また、和式トイレの使用方法がわからない方が一定数おられるため、汚物等の汚れにより使用不可のトイレがあることも、原因の一つになっている。

【事業内容】

- ・ トイレの利用実態を把握し、利用者の実態やそこからわかる課題の抽出を行う
- ・ トイレの課題解決に向けて、ハード／ソフト両面から適切な提案書を作成する
- ・ トイレ利用者に対して、適切な利用を求めるサインや案内板の設置を検討する（サイン・案内板の掲示内容も本事業内で検討する）

【推進ポイント】

- ・ 公共トイレにおける多様な事例を通じて、同様の事例を探りながら、観光地特有の“一時的に人がトイレに集中する場合”における対策を、専門家とともに検討する。
- ・ トイレメーカーに、IoTで利用状況や不具合を感知する仕組みがあるため、データ化して利用情報を把握するシステムの導入もメーカーと協議し検討を始めた。これらの活用も検討し解決を図りたい。
- ・ 人の流入量だけが原因ではなく、障害者や様々な特性を持つ人が利用するうえでのハード的な解決策（通路を広げる・多目的トイレの増設）なども加えて検討する。
- ・ 文化習慣の違いなど訪日外国人旅行者が起こす課題についての理解も深める。
- ・ トイレの課題については、利用者・運営者の双方から伺い、ハードだけでなくソフト面からの改善も検討する。
- ・ トイレの混雑の原因の一つに、水洗トイレに使用する水の量が足りないという、インフラ面の課題もあることがわかってきており、それらについても調査検討する。

5-①. 成果及び今後に向けて

補助事業①

かやぶきの里公衆トイレ混雑緩和に関する調査・提案事業

令和7年度事業の目標 (KPI)

指標名 トイレ改修・新築のための計画の策定及び計画の実行

令和7年度に掲げた目標値

- 計画の策定完了(100%)

事業の成果/目標の検証結果

- 計画の策定完了(100%)(令和8年2月時点)
(南丹市にてトイレの配置に関する計画書を作成。加えて、令和8年度以降実施予定の、トイレを含む南丹市全域の屋外掲示のサイン統一に関し、南丹市及び南丹市美山観光まちづくり協会で合意)

成果の詳細

- 南丹市にてトイレの配置に関する計画書を作成した
- 具体的な事例を地域の関係者らが一緒に学ぶことで、当該地域におけるトイレの現状認識を共有することができた。
- 共有した内容から、令和8年度以降具体的に何を行ったほうがよいか明らかになった。

令和7年度事業を踏まえた継続課題

1 水源の整備

- 今回の取組の結果、トイレに必要な水の供給において、上水道を利用できないことが改めて分かった。水源整備を含め、抜本的な改修には複数年を要することが明らかとなった。

2 その他ハード面の確認・検討

- 水道以外にもトイレの形状や駐車場の通行との交錯などの課題が発見されたため、継続した検討が必要である。

3 掲示物の表現・フォントの統一

- 利用方法や利用上の注意を喚起する掲示物の表現やフォントは、一トイレの問題ではなく、全市的な課題であると認識した。

令和8年度以降の方針

1 令和7年度に策定した計画に基づく取組の実施

- トイレの改修のために、水源の確保～トイレの改修（新築）に向けて今回策定した計画に基づき、目標達成に向けて順次取り組む。

2 掲示物の表現・フォント統一に関わる計画の策定

- トイレも含む案内表示、ピクトグラムについて南丹市全体の標識の統一化計画を策定し、順次対応する。

5-②. 主な取組（詳細）

需要の分散・平準化

補助事業②	かやぶきの里駐車場の管理システム導入に向けた検討		
事業目的	来訪者の分散化・駐車場運営の最適化		
実施主体	一般社団法人京都・美山・北村かやぶきの里保存会	実施期間	令和7年10月～令和8年2月

【背景・課題】

- ・ 関西主要都市および天橋立や舞鶴などから約90分圏内の立地であること。またそれらの地域からの周遊型観光が中心であるために、来訪時間が重なりやすく、時間帯での駐車場混雑になりやすい。
- ・ また、繁忙期やイベント開催時においては、終日駐車場待ちが府道にも溢れ、渋滞の原因になることも年に10日前後発生する。

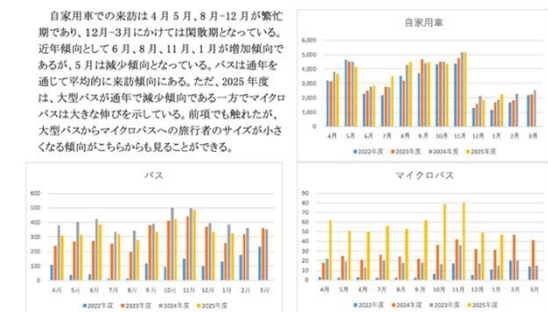
【事業内容】

- ・ かやぶきの里駐車場の無人化に向けた調査
- ・ ゲートの運用と予約管理システムの連携に関する調査
- ・ 混雑等の情報発信に向けたカメラ等設置ならびにWebでの情報発信に関する運用調査の実施

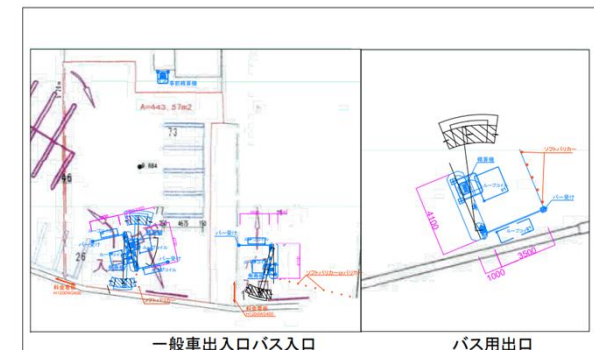
【推進ポイント】

- ・ 来訪者の分散化と平準化の基本は、事前での情報提供が重要である。
- ・ そのために、駐車場の混雑見込みを確認できる「混雑予想カレンダー」や渋滞状況をリアルタイムに把握できる「交通ライブカメラ」、Web等による駐車場混雑情報案内など、現地到着前での情報発信の方法や、有用な事例などから対策を検討する。
- ・ 加えて、その前提には、駐車場の現状把握していることが重要であるが、これについてリアルタイムでのデータのデジタル化に至っていない。
- ・ そこで、課題解決のために必要なデジタル化を行うために必要な、手段としてのゲートの設置や予約時システム情報サイトとの連動につながるよう考えていきたい。

2) 月別×車種別比較 (2025年度は1月まで)



3 対策計画（抜粋）



駐車場設備の配置検討資料（一部）

5-②. 成果及び今後に向けて

補助事業②

かやぶきの里駐車場の管理システム導入に向けた検討

令和7年度事業の目標 (KPI)

指標名

- ①駐車場の改修のための計画策定及び計画の実行
- ②駐車場稼働の平準化率(通年の月平均利用台数/混雑のピーク月の月平均利用台数) (現状73.4%)

令和7年度に掲げた目標値

- ①計画の策定完了(100%)
- ②なし(令和7年度は調査事業に留まるため)

事業の成果/目標の検証結果

- ①計画の策定完了(100%) (令和8年2月時点)
(令和8年度に進める駐車場改修の計画を策定。改修に関わる見積もりも実施)

成果の詳細

- 令和8年度進める駐車場改修の計画を策定できた(改修に関わる見積もりも実施)。
- 具体的な事例を地域の関係者らが一緒に学ぶことで、当該地域における駐車場の現状認識を共有することができた。
- 駐車場運営方法や配置等の課題の洗い出しができた。
- 住民間とも駐車場の現状と今後の方針について確認できた。
- 共有した内容から、令和8年度以降具体的な道筋が明らかになった。

令和7年度事業を踏まえた継続課題

駐車場の活用方針の検討

- 降雪地域やイベント併用などのバランスの検討が必要。

令和8年度以降の方針

駐車場管理システムの導入

- 令和8年度、ゲートの導入を実施。これを契機に、駐車場含めた人員配置や、来訪者対応等の最適化を図ることにより、観光による地域づくりの好循環を高めていく。

5-③. 主な取組（詳細）

地域全体の観光地域づくりに関わる事業

補助事業③	地域全体の観光地域づくりに対する協議会運営および対策計画の磨き上げ		
事業目的	計画の磨き上げと効果検証・施策の実現性の向上		
実施主体	一般社団法人京都・美山・北村かやぶきの里保存会	実施期間	令和7年10月～令和8年2月

【背景・課題】

- かやぶきの里は、生活の場もあるが、来訪者の増加により、民地への立ち入りやゴミのポイ捨てが目立つようになってきている。
- また、集落内は、茅葺き屋根をはじめ燃えやすい建物が多くあるが、来訪者の歩きタバコなどのマナー問題も依然見受けられる。

【事業内容】

- 地域協働計画の策定と協議会の運営
- 住民向けアンケート調査の実施
- 関係者間の調整や連携の円滑化

【推進ポイント】

- 住民生活と来訪者双方のニーズを把握し、共存できる観光のあり方について住民や行政、DMOが一緒になって方針を作成を行う。
- 地域が目指す持続可能な地域づくりを実現する観光のあり方を実現するために、観光に対する課題や不安・不満を感じていることを抽出し、解決の手立てをアンケートの実施から見出す。
- 同時に、観光のメリットや実態、住民が感じていることと観光客のギャップについて、また持続可能な観光とは何かについて住民自身が学ぶ機会を提供する。

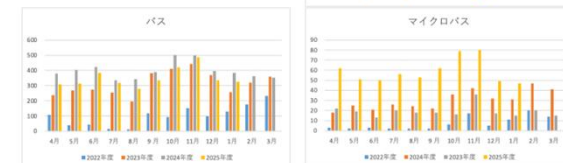


地域協議会・研修会の様子



2) 月別×車種別比較（2025年度は1月まで）

自家用車での来訪は4月5月、8月-12月が繁忙期であり、12月-3月にかけては閑散期となっている。近年傾向として6月、8月、11月、1月が増加傾向であるが、5月は減少傾向となっている。バスは通年を通じて平均的に来訪傾向にある。ただ、2025年度は、大型バスが通年で減少傾向である一方でマイクロバスは大きな伸びを示している。前項でも触れたが、大型バスからマイクロバスへの旅行者のサイズが小さくなる傾向がこちらからも見ることができる。



対策計画（抜粋）

5-③. 成果及び今後に向けて

補助事業③

地域全体の観光地域づくりに対する協議会運営および対策計画の磨き上げ

令和7年度事業の目標 (KPI)

指標名

対策計画の策定及び計画の実行

令和7年度に掲げた目標値

- 計画の策定完了(100%)

事業の成果/目標の検証結果

- 計画の策定完了(100%) (令和8年2月時点)
(補助事業①のトイレの整備及びサインの統一、②の駐車場改修に関し、計画を策定できた他、令和8年度に地域として実施すべき事項や協議会の継続実施に関わるスケジュールの策定ができた)

成果の詳細

- 補助事業①のトイレの整備及びサインの統一、②の駐車場改修に関し、計画を策定できた他、令和8年度に地域として実施すべき事項や協議会の継続実施に関わるスケジュールの策定ができた。
- (研修を通じて) 自らの原点に立ち返り大切にすべき価値を再認識した。
- 地域の方針を確認する場(協議会や勉強会)を通じて、一部の人だけではなく、関係者間で共通理解を作ることができた。
また、それぞれの背景や立ち位置などについても、おぼろげながら認識共有できた。
- 地域・行政・地域企業、DMOが一体となって課題共有する場が出来た。
- アンケートによって住民と来訪者の意識を理解し、今後の観光課題への対策につなげられた。

令和7年度事業を踏まえた継続課題

協議会参加者の役割分担

- 協議会の役どころは、あくまで協議の場であること(現状把握と課題共有まで)。次のステップは、それぞれの立場に応じた役割分担をし、協議から課題解決につながる体制を構築することが必要。

令和8年度以降の方針

協議会の継続実施

- 住民・来訪者双方が暮らしとともにある観光を目指し、自らの現在地と行き先を確認し、課題を共有し、解決できる場としての協議会を目指す。